

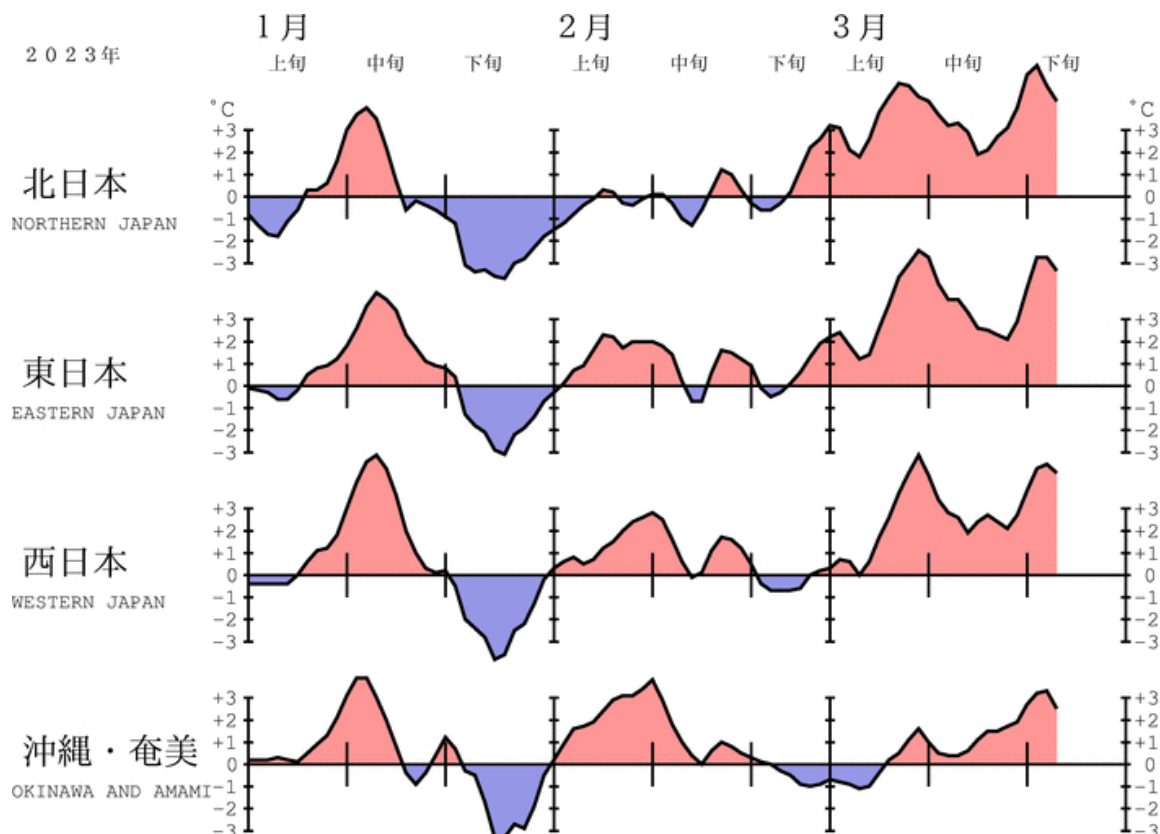
日本には過って「サクラ前線」という言葉が存在し、概ね九州・四国といった暖国から日本の代表種であるソメイヨシノの開花が始まり、中国・近畿・東海…東北・北海道へと北上するのが普通であった。このパターンが崩れ始めたのは 2010 年以降、東京・名古屋といった大都会の開花が早くなり、逆に九州などの開花が遅れるという現象が発生し始めた。ソメイヨシノの開花のメカニズムについては、いまさら言及するまでもないが、花芽の「休眠打破」に必要な寒冷期とその後の暖気に左右される。この「サクラ前線」この温暖化の影響を証明したのが、「ラニーニャ」現象の影響で寒い冬となった昨年度である。昨年の開花は、福岡・宮崎・高知・佐賀・熊本・鹿児島・東京・松山・広島・横浜・・・とほぼ過ってのサクラ前線にそったものであった。「地球温暖化」の影響は「気温」の上昇だけでなく、日本海側の積雪量にも影響し、この地域の開花が早まってきていること、及び「ヒートアイランド」現象を受けていると考えられる東京・横浜・名古屋などの開花が早まってきていることなどで「サクラ前線」と言う言葉自体が消滅と考えた方が良いのかも知れない。

既にご承知のことと思いますが、今年の開花 1 番は東京、次いで横浜・岐阜・名古屋・熊谷・京都・高知・甲府・福岡・松山・・・3 月 25 日現在 37 都府県で開花が記録されています。今年は 3 月に入っての異常と思われるような気温（高）に開花が早められたと思われます。

本報でも例によってサクラの開花に大きく影響すると考えられる最近の気温の経緯・近所歩きで観ているサクラ類の状況、頂いた情報、等で纏めてみます。

1. 今年の 1 月～3 月の全国の気温の状況

ご参考の為、日本全国の 1 月以降の平年との日平均気温差の上下図を挙げておきます。



＊今年の冬季は全国的に寒暖の振れの幅が大きくな年となつて来ていましたが、3月に入ると気温は急上昇、4月或いは5月初旬といった気温の経緯となっています。今年、冬季はほぼ寒暖の波はあったものの平年並み、「休眠打破」も平年並みと見られていました。さらに3月の気温の経緯からサクラの開花は平年より早めとなつてきています。と同時に戻り寒波や花冷えの現象も見られず、開花から満開の期間も短くなると推測されます。既に開花が早かった東京や岐阜、京都などでは満開の記録が報じられています。

個人的には、3月30日に地域の「桜巡り」ハイキングを企画しているので、少しは冷え込んで花がもってほしいと願うのですが・・・。

取り敢えず、気象庁の気温経過図を掲載しておきました。

2. 近畿地区のソメイヨシノの開花

近畿地区のソメイヨシノの開花も、遅れていた神戸で3月24日に開花宣言がなされ、全域で開花となりました。神戸は既報のように、標準木が変更となりましたが・・・早くはなつていません。全体的には、冷え込みの後暖冬気味に転じた一昨年と同じ様な開花日となりました。多くの地域で”最速”の記録もですが、近畿では奈良が最速記録となったと思います。

皆さまの観察地ではいかがでしょうか？ご参考までに。

・なお、各気象会社の出す「開花予想日」に関しては、これまで、各社の見方を皆さまにお伝えしてきました。直近まで近畿に関しては「平年並みかやや早い」との予想が多かったのですが、結果上表の通り、完全に外れとなりました。3月中旬の気温がこれほど高くなるとはどこも予想出来なかったのでしょうかね。

因みにサクラの芽・蕾の成長速度は日平均気温が15℃では2日分、20℃では3日分早くなると言われています。観察中のソメイヨシノなどでも最近急に花数が多くなってきたと感じられる方も多いのではないのでしょうか。

この現象は、ヤマザクラ、オオシマザクラ、ベニシダレ、陽光などでも同様、中には朝と夕方が開度が変わる種も出て来ています。

＊満開のソメイヨシノ、青い芽を吹く柳...上の写真はどこの風景でしょう。

✿以下、私の附近での桜の開花状況、並びに情報を提供頂きました桜の開花状況など紹介しておきます。

近畿地区のサクラ開花日				
地域	新平年値・	本年	昨年	一昨年
大阪	3月27日	3月19日	3月23日	3月19日
京都	3月26日	3月17日	3月24日	3月16日
神戸	3月27日	3月24日	3月25日	3月24日
奈良	3月28日	3月20日	3月25日	3月21日
和歌山	3月24日	3月20日	3月24日	3月18日
彦根	4月1日	3月22日	3月31日	3月22日



3. ヒガンザクラ（彼岸桜）

夙川のソメイヨシノの開花調査第1日目、3月17日に観測地に出向いた際に淡紅色の花を付けた本種に出会った。周囲の桜はまだ蕾、その中でひと際目立つ存在であった。通常、カンザクラの開花後、春のお彼岸の頃に開花するためヒガンザクラと命名された。

- ・本種はエドヒガンとマメザクラの雑種（交配種）と考えられているが自生地や来歴等は分かっていない。

- ・寒い時季に濃い緋色の花を咲かせる**カンヒザクラ**（寒緋桜）や、母種である**エドヒガン**もヒガンザクラと呼ばれることがあるので、混乱を避けるため本種を**コヒガンザクラ**と呼ぶことも多いとのこと。花がソメイなどより小さいから？「小」

- ・先日、本年最後の観察会で訪れた「流谷」周辺では、オオシマザクラはまだ蕾であったが、本種は満開となっていたので、大抵の人は気付かれていたと思う。

- ・本種も街中や公園などで見るより、日本の原風景「里山」に似合ったサクラでしょうね。



4. ヨウコウ（陽光桜）

ヨウコウザクラの歴史は浅く、品種登録は1981年のこと。作者は愛媛県で教員を務めていた高岡正明氏で、戦争によって亡くした教え子の鎮魂と平和を祈念し、長い歳月を費やして寒さに強いアマギヨシノと暑さに強いヒカンザクラを交雑させて誕生させたとされる。大輪で下向きに咲く。

写真は芦屋市の山手幹線の宮川近くに植栽される樹高8mほどの個体。毎年、開花と満開日を記録して来ている。今年葉、開花期が異常に気温が高い時期であった為か花期が短かった。

一方、芦屋市山手のさくら参道の坂道の街路樹として一昨年植えられた30本の樹（樹高5、6m）は、3月23日時点では3~8分咲きとバラつきが大きかった。

	開花日	満開日
2020年	3月16日	3月26日
2021年	3月11日	3月21日
2022年	3月16日	3月29日
2023年	3月16日	3月22日



5. エドヒガン

エドヒガンは日本に自生する原種 11 種のうち、の一つ。やザクラやオオシマザクラなどとは、異なる群に属し、樹高はおおよそ 15m～25m に達する落葉高木、この付近では箕面、能勢など北摂山系では 20mを超える大木も見られます。花は薄紅色から白で花弁は 5 枚で一重。名前の通り春の彼岸ごろに花を咲かせます。サクラの中では非常に長寿の種であることが知られており、樹齢 2000 年を超えるといわれる神代桜や樹齢 1500 年を超える淡墨桜、樹齢 1000 年と言われる樽見の大桜など国の天然記念物となっているサクラも多い種です。花が多く咲く特性から多くの品種の母種として使われています。また、ソメイヨシノの片親であることは周知の通りです。

・残念ながら、私の周囲、六甲山系では見られないので、斉藤さんからお送り頂いた京都植物園で撮影された画像を拝借。



6. ベニシダレ

上記のエドヒガンの変種で、枝垂れ形の中で花色が特に濃いものがベニシダレ。花は紅色で小輪の一重咲きです。古くから全国各地で栽培されています。花色の濃淡に個体差が出やすい品種とのこと、私の散策路の芦屋の市街地の上部・高級住宅街（六麓荘町）の一面の畑地 3 枚の周囲に約 30 本が植えられています。樹齢は土地の人に聞くと 60 年以上、樹高は 10 mを超える古木群です。

開花は一斉ではなく、写真の道路に面した数本が早く、今年の満開は 3 月 23 日でした。昨年はこの 1 群の満開は 3 月 27 日、後方の 10 本ほどは 4 月 7 日に満開の姿が見られました。どう見ても同一種ですが、なぜこれほど開花の時期がずれるのか不思議です。今年はどうなるのか観て見たいと思っています。30 日開催の「サクラ巡り」ハイキングの目玉の一つ咲いていてくれれば良いのですが。



前面の🌸開花データーは下記の通り、今年は気付いた日 3 分咲き、開花は 3 月 15 日頃でしょう。

	開花日	満開日	
2021 年	3 月 15 日	3 月 23 日	
2022 年	3 月 23 日	3 月 27 日	
2023 年	*3 月 17 日	3 月 23 日	*3 分咲き

なお、同じく上記のエドヒガンの変種とされているのが、**シダレザクラ**、京都ではイトザクラと言われている品種のようです。本来はこちらが本家、この内紅色の濃いものがベニシダレ。住まいの近くに淡紅色の花を付ける樹があるのですが、こちらは多分「シダレザクラ」でしょう。3月22日の画像ですが、ソメイには枝が下垂気味、周りのソメイヨシノより花数が多く一分咲き、また花も淡いピンク色です。これまでは、ベニシダレの色の薄い品種かと思っていましたが・・・。



7. 八重ベニシダレ、

こちらは正真正銘の「ベニシダレ」系です。

住居である中庭に 2020 年に植栽された若木です。翌 2021 年から花を付け始めています。当初から上方に伸びる主幹には花が付かず枯れ枝状態、この冬、上部の枯れ枝は伐採されてしまいました。

この八重シダレの成木は近くの「北山緑化植物園」に 2 本が植えられています。樹高は 5 m ほど、横枝で左右 10 m は超える樹形になっています。造園業者は上方よりは横広がりには剪定する手段をとっているのでしょう。多分、短期に開花させる手段でもあるのでしょう。



一応当マンションの樹の開花記録を並べておきます

	開花	満開
2021年	3月27日	3月31日
2022年	3月26日	3月31日
2023年	3月23日	3月27日

今年は開花が早いようです。本種は開花から満開までの期間が短いですね。

8. ソメイヨシノ関連の観察記録

皆さま方それぞれに今年は、グループとして、また個人で「ソメイヨシノ」の開花・満開日等の調査に取り組んで来ておられ、色々な情報もお聞きしています。

多くの方がこの観察を通じて、開花・満開に関しての疑義は勿論、開花以外にも色々な現象も観られたのではないのでしょうか。

これ等今年の「開花」や「満開日」に関しては後日、議論して見たいと思います、ここでは私の観た開花以外の出来事について記述しておきます。

*スズメさんの食事あと。

右の写真は、ソメイヨシノの自然楽花ではありません。この写真も開花間もない頃の画像です。既に多くの方がご承知と思いますが、スズメの仕業。ヒヨドリなどとは異なりサクラの花全体を食べるのではなく、萼片の下部、蜜のある部分を食いちぎった残骸の姿です。この現象については、1980年東京の写真家が気付き、以降各地で同様な現象が見られたので、一時はスズメの情報伝搬？などと言われたこともありました。現在では昔から持っていた潜在的な習性、都市化で地上での餌が減少したのでサクラを食べるようになった、と考えられています。何れにしても、ソメイヨシノは「果実」を付けないので花が食われようが実害なし。



*幹に観られた樹脂状物

サクラだよりー3で謎かけした、AやS区分のソメイヨシノの表皮部などに発生する「樹脂」状物、ご覧になったでしょうか。同じくー4で謎解きした通り揚水に伴う糖質の浸出と固化と推測解説いたしました。その後、サクラの開花調査時入力この樹脂状物は雨天時、幹が濡れると柔らかいゼリー状となり、乾燥するとまた硬くなることをメンバーと共に確認いたしました。雨が続けばやがては流れ去る物質なのでしょう。

*甲山森林公園の桜

先週月曜日、MNCの展葉調査メンバーから、公園の桜がチラホラ咲きになっているので観に行きませんかとの誘いがあり、「展葉調査」を名目に昨日お供致しました。ヤマザクラの開花状況を見たかったのですが、驚いたことに森林公園入口で下の写真、太子道の街路樹の光景に出会いました。先週は数輪しか見られなかったとのことでしたが、満開になっていました。この辺りは標高150mほどで過っては麓の夙川公園などからは5日から1週間ほど開花が遅れていたのですが、今年は逆にこちらの方が早い満開となりました。この公園に設置している「展葉調査」場所の温度計の記録はこの時期、市街より2℃ほど低いという記録があるのですが……。休眠打破の期間に差があったとしか考えられません。今回は、事実のみお伝えしておきます。

ヤマザクラなどの情報は次号でお伝えしたいと思います。



以上